

選択的夫婦別姓制度実現へ！ 地元国会議員、議会へ、街頭で

〈1・2面から〉

石破首相に「私は言いたい」と
地元事務所へ



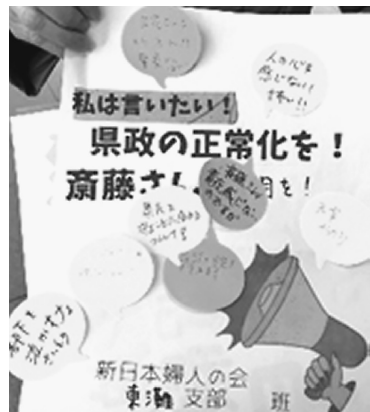
鳥取県本部

地元の女性の声を直接届けて

1月30日、県本部会長、副会長、事務局長と県本部委員からの参加もあり、4人で石破事務所を訪問。「私は言いたいカード」66人分と中央本部がまとめた選択的夫婦別姓アンケート結果を持って訪問しました。カードには「総裁選で言われたことは守ってください。手のひら返しは許さない。女性の声を届けたらいい」と書かれています。

いと集めました。ぜひ「わかりました。伝えたい」と一言だけの対応に、「さらに声を集めて、また届けにきます」と伝えています。緊急アクションに若い人たちが署名！

兵庫・東灘支部



「私は言いたい」シールで

「紹介議員になって」と
地元国会議員へ



マイクでよびかけ、署名・対話(兵庫・東灘支部)

県本部は、愛知県議会への「選択的夫婦別姓制度をただちに導入することを求める意見書」運動にとりくもうと、会員の弁護士を招いた学習会を実施しました。

愛知県本部

安城支部は、次世代と一緒に大西健介議員(立憲)を訪問。本人が「強制的夫婦同姓は人権問題」と、その場で紹介議員になりました。熱田支部は牧野議員(立憲)の事務所

主張 春、出足早く仲間づくり

「戦後・被爆80年、全国大会の年、出足早く」と各地で新春行動や原爆展、ゲストを誘って新年班会が開かれ、仲間を迎えています。対話の中では、「核兵器禁止条約締結国会議へ日本政府は参加を」「選択的夫婦別姓早く」「メディアは人権侵害や性暴力の根絶を」と声が寄せられます。

はしんぶんを読み合って要求を出し合うことで、県知事選挙で「天に話をして一緒に投票に行ってきた」という会員がうまれるなど変化しています。「いかに女性が抑圧されてきたかに気づいた」など、

(神奈川)とメールが届きました。会員の高校生の娘さんが、「私も国会に行つて議員に声を届けたい」と入会(鹿児島)など、いま声を上げ、政治を動かす新婦人が魅力です。班会や小組にゲストを誘って、スタンディングや原爆展、小組体験会なども班でとりくみ、チラシで大きく知らせ

て、春、出足早くとりくみましょう。第193回中央委員会(3月22日)へ、どの班も「6つのアクション」のどこからでも、今までやったことのないことにもチャレンジして仲間を寄せましょう。

12月議会には242班、192小組など474の団体請願書を県議会に提出。日本共産党だけの賛成で、意見書採択はされませんでした。が、「今国会で選択的夫婦別姓を実現しよう」と、地元の国会議員への要請にとりくんでいます。各支部が地元国会議員事務所を訪問し、「選択的夫婦別姓実現を早く、紹介議員になって」と次々に申し入れ、「承諾」の返事が届いています。

1月の支部長・事務局長会議で、各支部のとりくみを交流し、「今から行ってきます」「私たちも」と行動する支部が広がっています。

父が再婚、家に居場所はなく



富士銀行時代。左端が上西さん

しました。支店から本店に出す書類作成の仕事任せられ、残業の多い職場でした。1961年に父方の祖母が亡くなったことを受け、家族は故郷の宮崎県三股町に戻ることとなり、私は一人若松市で下宿生活をする事になりました。ところが職場では、私の一人暮らしが大変問題になりました。当時は若い女性職員のみ暮らしは、職場の規定で認められていなかったのです。労働組合で労使交渉をし、私は銀行で働き続けることができなくなりました。今では考えられない話です。つづく

聞き書き 母の歴史

宮崎県 上西祐子さんのお話 (5)

1956年に、私は福岡県立若松高校に入学しました。学校では友だちに恵まれ、それなりに楽しく過ごしていたのですが、わが家は、暗い家庭でした。新しい母に妹が生まれた一方で、中学生になる弟は新しい母になじめず、ひどく反抗するようになっていたのです。弟は、もともと他人となじめない性格の上、物心ついた頃に母が病気になる、寂しさを抱えながら育ったことも影響していたのかもしれません。